

仙台教区 復興支援活動ニュースレター

4→6・45通信

発行人：平賀徹夫 編集：小松史朗
 〒980-0014 仙台市青葉区本町 1-2-12
 カトリック仙台司教区事務局
 TEL 022-222-7371 FAX 022-222-7378
 義援金振替口座：02260-9-2305
 名義：カトリック仙台司教区本部事務局

今回は、宇都宮海星女子学院の生徒さんたちの、いちご農家での活動初体験のお話と、松木町教会「愛の支援グループ」が宮代仮設に住む浪江町被災者の方々と共に開催した「希望の風フェスティバル2015」についてご紹介いたします。もう1つの記事は、福島南相馬市原町にお住まいの高野郁子さん宅の除染の状況を書いていただきました。「除染」が具体的には、どのように行われているのでしょうか。

「変わりゆく被災地ボランティアの中で」

カトリック烏山教会 藤田 恵神父

4年目となった宇都宮海星女子学院の亙理ボランティア。生徒会主催のボランティアは学校行事として定着し、生徒会から「今年のボランティアは？」と催促されるほどだった。

というのも、亙理地区の復興住宅の建設が進み、仮設住宅の入居率が2割程に減少。これまで実施した生徒と被災者による交流型ボランティアが難しくなってきたことが、コーディネートする側の悩みだったからだ。

しかし、神さまが手を差し伸べてくださったのだろう。本学院を創立したマリアの宣教者フランシスコ修道会のシスターが、今年5月亙理に修道院を開設。修道会経営の看護大学の卒業生で亙理在住の女性とシスターがつながり、わたしたちにも繋がった。この卒業生の森さんは、亙理町出身で、震災時に勤務していた名取市の老人保健施設で被災した。ご主人も震災後に会社を退職し、いちご農家として再出発した1年目だった。そこで今年は、いちご農家の手伝いをする体力型ボランティアを中心にした。

わたしたちは、7月19日午前に亙理町に到着。教会のミサに参加した後、亙理の信者さんに聖歌と校歌を披露。教会の信徒の皆さんと一緒に昼食をとった。

その後、森さんの被災の体験をお聞きした。森さんは被災した老人保健施設で、津波に吞まれて渦に流されかけたこと。その夜、大勢のお年寄りを看取ったこと。極限状態の体験で心が押し潰され、体が動けなくなってしまった体験を涙ながらに話された。これほどの生々しい体験談は、海星のボランティアでは初めて。共感し目を真っ赤にする生徒が続出した。また、亙理に来たシスターに会って思わず抱きつき、抱きしめられることの素晴らしさから、人が繋がり励ましあうことの大切さを話されていた。



亙理教会にて 聖歌と校歌披露（左）



森さんの被災体験のお話の様子（右）

その後、森さんのいちご畑へと移動。いちごの苗をプランターに植えつける作業を手伝った。生徒たちは、1日目、2日目とも、たくさんの重荷を背負いながらも生きている森さんを少しでも励まそうと、精力的に手伝った。外は雨が降っていたが、ビニールハウスの中での作業で、濡れることなく作業できたのは大変助かった。

いちごの苗の植えつけ作業の様子



4年目で特筆すべきは、生徒たちが積極的に動くようになったことだ。毎年訪れてボランティアの話を聞く地元NPO「亘理いちごっこ」のグッズを、昨年も訪れた生徒会長が学園祭で販売することになった。学園祭で無事グッズは完売。生徒たちの成長を感じた。

後日、生徒の提出したレポートを見ると、森さんの体験談に言及した文章が多かった。「当たり前」の日常が奇跡に感じる」という森さんの言葉をあげる生徒。被災した方に寄り添うことの大切さ。被災の出来事を忘れないことが大切だとする生徒が多かった。

今年のボランティアは、仮設の移行期に当たり、ボランティアの内容を工夫しなければならない難しさがあった。しかし神さまの助け舟や地元NPOとの関係を大切に、今後のボランティアも継続できるようにしたいと考えている。



宮代仮設住宅「希望の風フェスティバル 2015」から

カトリック松木町教会「愛の支援グループ」

鈴木 教弘

9月12日（土）福島市・宮代仮設住宅集会所前庭で「希望の風フェスティバル 2015」が開かれた。大震災、原発事故被災者の浪江町民の方々に寄り添って丸4年。宮代仮設住宅自治会がなくなったことにより、バザーに代わってこのフェスティバルは、この4年間に頂いた全国からのご支援に感謝を含め、また、これから仮設住宅を去る人、残る人に希望の風が吹きますようにとの願いを含めて開催された。この日は、久しぶりの秋晴れ。水害被災地に心を痛めながらも、天候に恵まれたことを感謝した。

フェスティバルには、仮設住宅内外の浪江住民の方々約40名近く（176戸の内45世帯入居）、ボランティアさんは最初に駆けつけてくださった田園調布教会や困ったときに助けてくださる雪ノ下教会、前日からの泊まり込み支援の方など東京教会管区の皆さん約30名。地元からは震災直後から、また初めて参加できたご高齢の方、茶道教室の方など約50名が、当日、松木町教会トマス神父様の派遣の祝福をいただいて参加した。

準備は、仮設住民の方との共同作業。仮設住民によるプロの味の浪江焼ソバば、松木町教会男性軍の焼き鳥等々。

オープニングソングとして、避難所訪問のときから歌い継がれている「ごらんよ空の鳥」で幕開け。そして、東日本大震災・津波で亡くなられた方々、原発事故関連死の方々、仮設住宅で帰還を果たせずに亡くなった方々のために幸田司教様のお祈りにより黙祷を捧げ開始された。

ご来賓として浪江町役場の大原生活支援課長様、平賀司教様、幸田司教様から温かい励ましのお言葉をいただいた。また、浪江町役場、仙台サポートセンター、野田町教会と松木町教会の神父様、地元警察署、グランドゴルフの代表、CTVCの皆さまが出席してくださった。



花笠踊りや民謡も披露され、皆さん笑顔に包まれていた。

次いで仮設住宅の浪江町住民を代表して、感謝の民謡が披露された。いつも集まりで唄ってくださるヒデばあちゃんこと佐藤ヒデ子さんの「相馬流れ山」（尺八伴奏は弟の椿内 温さん）と高橋タカヨさんの「新相馬節」は、勇壮な相馬野馬追、美しい海、山を想わす。

いつ帰れるかわからないふる里の情景が思い巡らされた。早く帰れますようにと願わずにはいられない。美しいふる里を思うほどに原発というものの不条理が脳裏をかすめる。

仮設住宅元自治会代表 斉藤恵一さんの乾杯で始まった会食では、B級グルメ日本一の浪江焼ソバやボランティアさんの心のこもった料理を美味しく頂いた。

アトラクションではフラダンス、松木町教会の子供たちとお母さんたちによるダンス、仮設住民の方による歌謡曲や民謡。さらに、フィナーレでは、元気が出るようにと楽しく練習を重ねてきた山形の「花笠踊り」をみんなが「花笠うちわ」を持って踊り、赤いたすきの浴衣姿もあって、大きな輪で「ヤッショ マカショ 浪江町！」の掛け声で賑やかな交流の輪が広がった。

宮代仮設住宅世話人代表 西澤 一さんのあいさつ後、エンディングソングは、「ありがとう地球」。歌詞の「地球に感謝したことがあったらどうか・・・人が汚したこの星を・・・必ずきれいにして返すから・・・」に原発被災地の思いが重なった。「ありがとう！ありがとう！ありがとう地球！」にみんなの手拍子が強く響いた。はじけるようなたくさんの笑顔から、感動のつながりへとなっていった。



つづいて二次会の集会所内では、仮設住民の方々が心をこめて作りためた手工芸品を拝見しながら、交流が続いた。「オーソレミオ」の女装では爆笑となり、サクソホン、ギター演奏など盛り沢山。また、「ふれあい茶の湯ボランティア」の原点となったお抹茶の呈茶もあり、さらに茶道宗 徧流正伝庵岩田宗玆家元様も駆けつけてくださった。多くの皆さまのご支援にただ感謝、感謝の一日であった。そして、支え合いのスローガンとなっている「今日も元気！ きっと明日も元気！ いつも笑顔でいられますように！」の希望の風が皆さんの上に、吹くことを願い幕を閉じた。



二次会も歌に楽器演奏と大盛り上がり♪

南相馬市原町区 局所除染作業について

カトリック原町教会 高野 郁子

昨年（2014年度）から福島県南相馬市原町区西町の局所除染作業予定の話があり、当初は同年秋頃から作業が始まるという話でした。そのため、2014年度の秋植え球根をどこに植えようかと考えた期間があります。しかし、しばらく植えないでいたら、作業は一冬越して2015年になるからとの話を聞き、秋植え球根を植えた覚えがあります。

今年の春頃から、近隣で除染作業が開始され、9月に入ると自宅及び庭の除染作業が本格的に始まりました。



局所除染 手作業で土を剥いでいく様子



今、南相馬市の除染作業は、線量の高いところ（西部山側）や小高区（南）から始まり、さほど線量が高くない東部海側や鹿島区（北）へと進んでいます。原町区でも、すでに駅前や旭町や二見町に移動しています。

1班5人くらいで作業をし、同じ隣組でも幼い子どもがいる家、敷地全体に線量が高い家は、優先的に作業が終わっています。期間的には、屋根関係2日、雨樋1日、側溝1日、私道1日、庭3日以上となっており、作業は連続ではなく、屋根受け持ち→雨樋受け持ち→庭受け持ちとなり、高所から低所へと進めていきます。今日（9月12日）は台風の後で蒸す晴天ですが、この近所一帯で除染作業をしています。隣の家は、重機（バックホーン）が入り、庭の土を全面的に剥いでいました。



事前の空間線量調査時に、線量が高い場所にはピンクのテープ（写真の赤丸で囲んだ場所）が打たれており、そこを中心に作業が行われている。

《局所除染作業に至るまで ー南相馬市原町区西町ー》

2014年8月 南相馬市除染作業及び除去土壌等の保管管理業務住民説明会

2014年8月 除染同意書を提出

2014年9月 宅地調査（宅地範囲の調査）

2014年11月 住宅の敷地内の空間線量を計測。

敷地4隅と玄関前

2015年1月 空間線量の平均結果通知

（平均0.24 μ Sv/h）

2015年3月 上町、西町地区生活圏除染作業

2015年4月 家の詳細モニタリング

1m間隔で地上1mの空間線量を調査し、部分的に基準値より線量が高い所にピンクのテープを打つ。水のたまる場所、木の下等、いくつか高い所があった。どの程度の線量かは教えてもらえなかった。

2015年7月 作業計画が郵送される。

2015年7月 担当者が来訪し、どのような除染作業になるか説明。

線量の高い場所を5cmほど掘り、代わりに砂利や土を補充していくとのこと。

2015年7月下旬 雨樋の除染に作業員の方が来訪。

命綱を屋根に架けて、丁寧に雨樋の外、中を拭き取る作業。

2015年9月1日 私道除染（モニタリング調査）のお知らせ。

2015年9月5日 側溝の除染 作業員4名 半日で終了。

丁寧に泥あげをし、白い土嚢袋に全て入れて運んでいった。

量としては、半分くらい入った土嚢袋が10袋くらいだった。

2015年9月12日 庭の局所的除染作業開始

庭の局所的除染作業は、地面を5cm除去し、代わりに新しい砂利や土を敷く。スコップを使うのではなく、いわゆる園芸作業の鎌などを使って手作業で土を剥いている。黒い袋ではなく白い土嚢袋に土を回収。持ち上げてみたらとても重かった。作業は、事前に担当者の電話か訪問があり、こちらの都合が悪いと再度日程調整となる。また雨が降ると作業は中断する。雨が降るらしいと事前に分かれば作業は最初から手をつけない。



側溝除染も手作業で行われている。



除染作業場所には、きちんと看板が設置されている。

《感想》

見ていると除染作業は大変な作業です。暑い中、服の中に風を送る装置を付けて仕事をしていました。側溝、私道漏れることなく、平面的にすべて除染作業をしていきます。局所的に線量が高い場所あちこちに、ピンクのテープが打たれています。早く作業が終わればいいと思います。